

平成22年度決算に係る

定期監査
決算審査
調査書

平成23年4月

農林水産部農林総合研究所
農業試験場

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	1頁
	(2) 監査意見	1頁
	(3) 決算審査意見	1頁
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1頁
3	組織及び業務調べ	1頁
4	職員の定員、現員調べ	1頁
5	役付職員の調べ	1頁
6	主な事業に関する調べ	2頁
7	決算調書(総括表)	5頁
8	事業別実施状況調べ	6頁
9	予備費の充用調べ	6頁
10	繰越関係調べ	6頁
	(1) 継続費逋欠繰越調べ	6頁
	(2) 繰越明許費調べ	6頁
	(3) 事故繰越調べ	6頁
11	収入証紙取扱額調べ	6頁
12	収入事務処理状況調べ	7頁
	(1) 分担金及び負担金	7頁
	(2) 使用料	7頁
	(3) 手数料	7頁
	(4) 財産収入	7頁
	(5) 寄付金	7頁
	(6) 諸収入	8頁
	(7) 現金の取扱状況	8頁
13	税外収入未済額調べ	8頁
14	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	8頁
15	税外収入不納欠損額調べ	8頁
16	債務負担行為の状況調べ	9頁
17	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	10頁
	(1) 負担金	10頁
	(2) 補助金	10頁
	(2-2) 補助金(他課から予算の配当替えを受けて執行したもの)	10頁
	(3) 交付金	10頁
	(4) 委託料	11頁
	(4-2) 委託料(他課から予算の配当替えを受けて執行したもの)	11頁
18	工事請負費調べ	11頁
18-2	工事請負費調べ(他課から予算の配当替えを受けて執行したもの)	11頁
19	財産に関する調べ	12頁
	(1) 公有財産	12頁
	(2) 金券類の受払状況	15頁
	(3) 基金	15頁
	(4) 債権	16頁
20	財産の貸付及び使用許可調べ	17頁
	(1) 土地及び建物	17頁
	(2) 物品(1品の取得価格が100万円以上のもの)	17頁
21	借受不動産明細調べ	18頁
22	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	18頁
	(1) 職員住宅	18頁
	(2) 職員駐車場	18頁
23	自動車(二輪を除く)の管理状況調べ	19頁
24	寄附物件の受納状況調べ	19頁
25	備品の処分状況調べ	19頁
26	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	19頁
27	貸付金等状況調べ	19頁
	(1) 総括表	19頁
	(2) 償還状況	19頁
28	事業別予算執行状況調べ	20頁
29	農業機械の管理状況	21頁
30	生産物(品)に関する調べ	22頁
31	試験研究調査事業別実施状況調べ	23頁
○	意見、要望等	36頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

- (1)指摘事項 該当なし
- (2)監査意見 該当なし
- (3)決算審査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
農業試験場	作物研究室	(1)主要農作物の育種及び栽培に関すること (2)主要農作物の原種及び原原種に関すること (3)農業経営技術の改善に関すること (4)水田機能の維持・保全に関すること (5)農業機械化に関すること
	環境研究室	(6)土壌肥料及び土壌保全に関すること (7)主要農作物の病害虫に関すること (8)土壌、肥料等の分析に関すること
	有機・特別栽培研究室	(9)有機・特別栽培の生産技術に関すること

4 職員の定員、現員調べ

(平成23年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	22.4.1現在	当該年度	22.4.1現在	当該年度	22.4.1現在	当該年度	22.4.1現在	
定員	0	0	17	17	6	9	23	26	
現員	() 0	() 0	() 18	() 17	() 6	() 9	() 24	() 26	
	()	()	(5)	(5)	()	()	(5)	(5)	病害虫防除所勤務
過不足(Δ)	0	0	1	0	0	0	1	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	1	1	0	0	12	8	13	9	農業技術員11名 事務補助1名

5 役付職員の調べ

(平成23年4月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	(兼)沢田 義久	2		病害虫防除所長
作物研究室長	松田 悟	1		
環境研究室長	(兼)坂東 悟	2		通算9年 病害虫防除所主幹
有機・特別栽培研究室長	熊谷 均	3		

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>米の新規需要に対応する超低コスト生産技術の確立</p> <p>決算（見込）額 2,465千円</p> <p>（財源内訳） 一般財源 1,324千円 その他 1,141千円</p> <p>事業期間 平成21年度～ 平成23年度</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的 飼料用米、米粉パン等米の新規用途への活用が始まっているが、定着には生産コストの大幅な削減が必要である。</p> <p>このため、多収米の活用、高能率な作業法、資材費低減技術、省力化技術等を検討し、生産コストを主食米用の1/3程度に低減することを目標とした生産技術を開発する。</p> <p>（イ）事業の実施状況 他県等と共同研究を行った（近中四農研、岡山、広島、山口、愛媛）。</p> <p>1) 多収稲による超低コスト栽培技術の検討</p> <p>（1）多収米稲の栽培特性把握 ・「北陸193号」の作期（3作期）、栽植密度（2）について試験し、栽培特性を検討した。 ・また、低コストに向けた直播栽培、短期育苗栽培についても検討した。</p> <p>（2）発酵粗飼料（WCS）用稲の栽培特性把握 ・「たちすずか」の播種量（2）、施肥方法（2）について試験し、栽培特性を検討した。</p> <p>2) 省力的なほ場管理技術の検討 ・水田管理で最も労力と時間を要する畦畔の草刈り作業を省力化する技術として、カバープランツによる雑草抑制技術を検討した。 （注）：カバープランツとは地被植物または被覆植物のことで、地表を覆う（カバーする）ように生育する植物の総称</p> <p>3) 耕作放棄地復田化技術の検討 ・数年間耕作していない、あるいは畑作物を連作していた水田の漏水対策技術を検討した。</p> <p>イ 平成22年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 現場への早期普及を最重点とした。このため、前年度の成績を踏まえて、現地と協力しながら試験に取り組んだ。</p> <p>ウ 成果</p> <p>1) 多収稲の品種選定と暫定的な栽培技術の開発 ・本県にあった多収米品種「北陸193号」を選定し、移植における作期、栽植密度、施肥管理等についての栽培法を明らかにした。 ・飼料用稲（WCS）用品種として、「たちすずか」を選定し、直播における作期、播種量、施肥管理等についての栽培法を明らかにした。</p> <p>2) 復田化に向けた漏水防止技術の開発 ・水田の漏水防止技術として、新たに以下のような技術を開発した。 前年秋に畦畔沿いに溝（幅20cm×深さ25cm程度）を掘り、その後、耕耘、整地、代かき時にトラクター車輪で踏圧することにより、畦畔からの漏水が削減できる。</p> <p>エ 課題</p> <p>・コスト削減に向けた組合せ技術の検討が必要である。 ・省力的なほ場管理技術としての耕起方法、代かき方法についての検討および、カバープランツの効果確認が必要である。 ・水田漏水防止技術について、ほ場の中心付近での検証が必要である。</p>	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>水稲・麦・大豆の高品質安定生産を目指した病害虫防除技術の確立</p> <p>決算（見込）額 1,956千円（財源内訳） 一般財源 1,456千円 受託 500千円</p> <p>○将来ビジョン Iひらく（4）食のみやこ鳥取県</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1）水稲・麦・大豆の生育阻害あるいは品質低下の原因となっている病害虫を対象に、鳥取県に適した効率的防除法を確立し、高品質安定生産を図る。 2）生産者からの要望が高い省力防除法を確立し、生産コスト・労力の低減を図る。 <p>（イ）事業の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1）水稲の生産安定を目指した病害虫防除技術の確立 本県重要病害虫（いもち病およびフタオビコヤガ）に対する新薬剤の効果（育苗箱施用剤のは種時処理）、残効期間および現地実用性の検討を実施した。 2）玄米品質向上を目指した病害虫防除技術の確立 <p>（1）内穎褐変病発病抑制微生物（鳥取県発見、特許出願中）のメーカー製剤の効果把握および他病害への適用性の検討を実施した。</p> <p>（2）斑点米カメムシ類の要防除水準改訂のための調査および解析を行った。</p> <p>イ 平成22年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 事業最終年度であるため、検討課題に優先順位を付け、年度内に確実に成果が出せるものと、将来の大きな成果につながるものに集中して取り組んだ。一方で暫定的対策を確立した一部の課題は試験終了とした。</p> <p>ウ 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1）水稲の生産安定を目指した病害虫防除技術の確立 いもち病およびフタオビコヤガに対する新規育苗箱施用剤の高い防除効果と長い残効性を確認し、本剤の現地実用性は高いと判断した。これらの結果をもとに関係機関に情報提供を行い、平成23年度JA栽培ごよみに本剤が採用された。 2）玄米品質向上を目指した病害虫防除技術の確立 <p>（1）発病抑制微生物製剤の効果把握 微生物製剤の内穎褐変病および他病害に対する効果を把握した。メーカーとの秘密保持、新たな特許に関係するため、結果は非公開とした。</p> <p>（2）斑点米カメムシ類の要防除水準改訂のための調査および解析 斑点米カメムシ類の中で本県の主要種であるアカスジカスミカメの発生数と斑点米率の関係を解析した結果、本種の要防除水準は出穂4～9日後の捕虫網50回振りすくい取り虫数6頭であることを明らかにした。</p> <p>※ 本事業の成果情報数は昨年度までに13本を提供し、本年度には4本を予定している。これらの成果情報は「新しい技術」として取りまとめられ、各普及所、JA等の関係機関への提供およびHPで公開されている。</p> <p>エ 課題 発病抑制微生物の商品化（農薬化）を目指すためには、他病害への適用拡大に向けて、製剤の評価、使用方法の検討等の各種試験が必要であり、新規課題で検討予定としている。</p>	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>水稲有機栽培技術の調査・技術確立事業</p> <p>決算（見込）額 2,780千円 （財源内訳） 一般財源 2,780千円</p> <p>○将来ビジョン I ひらく（4）食のみやこ鳥取県</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的 有機栽培実践農家等の事例調査を通じて、有効な技術や問題点を抽出・検証し、生産現場への情報提供と新たな技術の確立につなげる。また、収量や食味に大きく影響を与える有機質肥料の施肥技術改善を目指し、安価で適当な有機質肥料（鶏糞等未利用資源を含む）の選定と施用方法の検討を進める。これらをもって、水稲の有機・特別栽培の面積拡大に貢献することをねらいとする。</p> <p>（イ）事業の実施状況</p> <p>1）水稲有機栽培技術の調査・検証</p> <p>（1）有機・特別栽培現地実践ほ場の調査・検証 ・調査対象…有機栽培等ほ場 28筆 ・調査内容…生育・収量・品質・食味、雑草・病害虫発生状況 等</p> <p>（2）有機栽培技術を組み合わせた試行的実証ほ場の場内展示</p> <p>2）有機・特別栽培米の施肥技術の確立</p> <p>（1）発酵鶏糞等、各種有機質肥料の肥効特性の把握と活用法検討 （2）肥効発現に影響する気温、土壤等の環境要因の解析と施肥時期予測 （3）現地試験実施による施肥改善技術の効果検証</p> <p>イ 平成22年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の最終年度に当たるため、あらかじめ成果情報として期待できる目標を絞り、その項目に関する調査や試験を重点的に実施するよう努めた。 ・データ取得を重点的に行いたい対象現地農家は、調査ほ場数を増やしてそのデータ精度を高めるように心掛けた。 ・有機質肥料の施肥法に関する現地試験は、過去2年間の試験結果を基に、データの精査が必要な試験区に絞って設定し、確実な成果取得を目指した。 <p>ウ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の調査結果を基に、有機実践農家の水稲平均収量が350/kg程度に止まりその要因としては雑草害の影響が大きい点、現状で問題となる草種はコナギ、ノビエ等であり作土中のコナギ種子量は多いほ場では26万粒/m²に達する点、等を明らかにした。これらは今後の対策技術の検討に際し、十分に活用できる貴重な基礎データと言えるものである。 ・今後の有機参入者等に向け、水稲収量や抑草技術に関して当面のモデルとなる優良な実践事例を抽出し、その技術体系を紹介できる素材にまとめた。 ・積算気温に着目すれば、煩雑な稲の生育段階を見分ける作業に頼らずとも、過去の蓄積データを基に予測することで、有機質肥料による穂肥適期が判断できる技術を確立した。また、県内に流通する発酵鶏糞の特性を調査、いずれも肥効に大差はない点と、水稲基肥としての適正施用量を明らかにした。 ・事業実施の改善の結果、上記を含め全部で5本の成果情報素材を獲得した。 <p>エ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機実践農家が対象のこれまでの調査は、まず実情を把握するために面的な方法で進めたことから、有用と思われる個々の技術に関するメカニズム等の解析が十分ではない。現地で成立している技術を掘り下げて解明する詳細調査は次年度からの新規課題の中で取り組み、補完を進める予定である。 	

8 事業別実施状況調べ

(単位：円)

事業名	予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	事業の計画と実績・成果
(農業試験場費)					
農業試験場管理運営費	35,955,000	19,034,449		16,920,551	施設の維持管理、非常勤職員の雇用等、試験場の管理運営を行った。
試験研究費	24,993,000	12,505,776		12,487,224	主要農作物(水稲・麦・大豆)、農機具、農業経営及び土壌等の各種試験を行った。うち、米の新規需要に対応する超低コスト生産技術の確立ほか2事業は、「6主な事業に関する調べ」に、水稲新品種育成試験ほか10事業は、「31試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載。
身近な農業試験場推進事業	644,000	403,872		240,128	試験研究結果、及び開発中の技術等の情報提供を行った。
本館屋上防水工事(繰越)	25,618,000			25,618,000	庁舎本館の屋上防水改修を行った。(営繕課に担当替え)
別館屋上防水工事(繰越)	5,324,000			5,324,000	庁舎別館の屋上防水改修を行った。(営繕課に担当替え)
用排水路改修工事費(繰越)	45,990,000	24,950,000		21,040,000	圃場の用排水路の改修を行った。
施設整備費(繰越)	4,283,000	2,804,564		1,478,436	試験研究に必要な備品等を整備した。
試験研究費(繰越)	4,076,000	3,407,500		668,500	試験研究に必要な備品等を整備した。
目計	146,883,000	63,106,161	0	83,776,839	

9 予備費の充用調べ 該当なし

10 繰越関係調べ 該当なし

11 収入証紙取扱額調べ 該当なし

12 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

(単位:円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
行政財産使用料	行政財産使用料	電柱敷地等	5	68,963	68,963	0	0	鳥取県行政財産使用料	
		職員駐車場	10	407,000	407,000	0	0	"	4月~1月分
		計(節)	15	475,963	475,963	0	0		
	目計		15	475,963	475,963	0	0		
	合計		15	475,963	475,963	0	0		

(3) 手数料 該当なし

(4) 財産収入

(単位:円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
生産物売払収入	生産物売払収入	播種用原種ほか	12	5,220,048	5,220,048	0	0	生産品事務取扱要領 (物品規則)	
		計(節)	12	5,220,048	5,220,048	0	0		
	目計		12	5,220,048	5,220,048	0	0		
	合計		12	5,220,048	5,220,048	0	0		

(5) 寄付金 該当なし

(6) 諸収入

(単位:円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
雑収入		原稿筆耕料	3	63,200	63,200	0	0		
		預金利息	1	24	24	0	0		
		廃棄物売払	1	2,370	2,370	0	0		
		自販機電気代	3	25,628	25,628	0	0		
		自販機販売取扱手数料	4	120,438	120,438	0	0		
	目計			211,660	211,660	0	0		
	合計			211,660	211,660	0	0		

(7) 現金の取扱状況 該当なし

13 収入未済額調べ 該当なし

14 未収金回収促進のための取り組み状況調べ 該当なし

15 税外収入不納欠損額調べ 該当なし

16 債務負担行為の状況調べ

(単位：円)

事業名	種別	設定状況		当該事業の契約 額等	設定年度 の執行額 A	執行(支出)状況				合 計 A+B	備考	
		議決	期間			限度額	21年度までの 執行額	債務負担行為の期間				計 B
								22年度執行額	23年度以降の 執行予定額			
平成20年度農業試験場施設管理等業務委託	委託料	H20年12月	H21年度から H23年度まで	3,675,000	0	1,204,602	1,204,602	1,204,602	1,204,602	3,613,806	3,613,806	
平成20年度農業試験場原種合理化施設種子貯蔵庫保守点検業務委託	委託料	H20年12月	H21年度から H23年度まで	747,000	0	248,850	248,850	248,850	248,850	746,550	746,550	
合 計				4,422,000	0	1,453,452	1,453,452	1,453,452	1,453,452	4,360,356	4,360,356	

17 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1) 負担金

(単位:円)

予算科目(目)	予算額	区分	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の根拠法令名等(規約、要綱等を含む。)	備考
(農業試験場費)	133,000		大口堰土地改良区賦課金	大口堰土地改良区		H22. 5. 25	132,487		
支出金額が10万円未満のもの							80,160		
目 計							212,647		
(農作物対策費) 支出金額が10万円未満のもの							10,000		令達元: 生産振興課
目 計							10,000		
合 計							222,647		

(2) 補助金 該当なし

(2-2) 補助金(他課から予算の配当替えを受けて執行するもの) 該当なし

(3) 交付金 該当なし

(4)委託料

予算科目 (目)	国補 単 の別	委託料の名称	委託契約の 相手方	当初契約			人札等 年月日 (契約保証金 納付等年月 日)	完了			支出の状況			備考
				予定価格	契約年月日 (契約額)	契約期間		年月日	年月日	支出区分	支出年月日	金額		
													変更契約(最終)	
農業試験場費	単	原種貯蔵施設保守点 検業務	(有)オールエンジニア サ-ビス	747,000	(H21.4.1) 746,550	H21.4.1 ~ H24.3.31	H21.3.26 (免除)	H22.5.27 外	H22.5.27 外	精算	H22.6.8 外	165,900	H21~23年度 債務負担行為 年額 248,850	
農業試験場費	単	農業試験場エレベ- ーター保守点検業務委 託	三菱電機ビルテクノ サ-ビス(株)中国支社	2,118,000	(H21.4.1) 2,079,000	H21.4.1 ~ H24.3.31	H21.3.27 (免除)	H22.4.30 外	H22.4.30 外	精算	H22.5.11 外	519,750	H21~23年度 債務負担行為 年額 693,000	
農業試験場費	単	自家用電気工作物保 守管理業務委託	(財)中国電気保安協 会	930,006	(H21.4.1) 930,006	H21.4.1 ~ H24.3.31	H21.3.30 (免除)	H22.4.5 外	H22.4.5 外	前払	H22.4.30	310,002	H21~23年度 債務負担行為 年額 310,002	
農業試験場費	単	庁舎警備業務委託	山陰警備保障(株)	606,000	(H21.4.1) 604,800	H21.4.1 ~ H24.3.31	H21.3.19 (免除)	H22.4.30 外	H22.4.30 外	精算	H22.5.18 外	151,200	H21~23年度 債務負担行為 年額 201,600	
農業試験場費	単	廃液処理業務委託	三光(株)	@90円/Kg ほか	(H22.9.9) @60円/Kgほか	H22.9.9 ~ H23.3.31	H22.8.26 (免除)	H22.11.4 外	H22.11.4 外	精算	H22.12.14	74,130		
農業試験場費	単	食味官能試験	(財)日本穀物検定協 会関西神戸支部	852,600	(H22.11.29) 852,000	H22.11.29 ~ H23.3.18	H22.11.22 (免除)	-	-	精算	-	-		
予定価格が20万円 未満のもの														
目計												353,889		
合計												1,574,871		

(単位:円)

(4-2)委託料(他課から予算の配当替を受けて執行したもの) 該当なし

18 工事請負費調べ 該当なし

18-2 工事請負費調べ(他課から予算の配当替を受けて執行したもの) 該当なし

19. 財産に関する調べ
(1)公有財産
ア 土地

行政・普通 財産の区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度末		本年度異動状況		平成23年1月31日現在		備考
			面積(m ²)	価額(円)	面積(m ²)	価額(円)	異動日	増減別	面積(m ²)	価額(円)	
行政財産	農業試験場圃場	鳥取市橋本字 原繩手144-2外	28,023.00				H	増加	875.42	27,147.58	0
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字 立石162外	49,956.51				H	増加	1,403.61	48,552.90	0
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字 井手ノ上206-1	4,986.00				H	減少		4,986.00	0
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字 井手ノ上	3,619.00				H	増加		3,619.00	0
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字 下瀬江215-1外	6,032.00				H	減少		6,032.00	0
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字 上瀬江220外	5,855.00				H	増加		5,855.00	0
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字 加瀬谷225-1外	3,252.82				H	減少		3,252.82	0
	農業試験場圃場	鳥取市橋本字 奥ヶ谷224外	19,987.95				H	増加		19,987.95	0
	計			121,712.28	0.00				-2,279.03	119,433.25	0
	普通財産	なし								0.00	0
計			0.00	0.00				0.00	0.00	0	
合計			121,712.28	0.00				-2,279.03	119,433.25	0	

イ 建物

行政・普通 財産の区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度末		本年度異動状況		平成23年1月31日現在		備考
			面積(m ²)	価額(円)	面積(m ²)	価額(円)	異動日	増減別	面積(m ²)	価額(円)	
行政財産	農業試験場本館	鳥取市橋本	2,423.60				H	増加		2,423.60	0
	付属棟	"	182.00				H	減少		182.00	0
	渡廊下	"	24.00				H	増加		24.00	0
	収納舎	"	495.00				H	減少		495.00	0
	油倉庫	"	7.70				H	増加		7.70	0
	車庫	"	118.67				H	減少		118.67	0
	自転車置場	"	27.36				H	増加		27.36	0
	土壌調整室	"	43.74				H	減少		43.74	0
	土壌殺菌室	"	24.30				H	増加		24.30	0
	人工気象室	"	63.00				H	減少		63.00	0

行政・普通 財産の区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況				本年度末		備考	
			面積(m ²)	価額(円)	異動日	面積(m ²)	価額(円)	増減理由	面積(m ²)	価額(円)		
行政財産	病害虫温室網 室	鳥取市橋本	162.00		H			H		162.00	0	
	世代短縮温室	"	67.00		H			H		67.00	0	
	科学ガラス網 室	"	180.00		H			H		180.00	0	
	作物ガラス網 室	"	127.44		H			H		127.44	0	
	圃場詰所	"	81.00		H			H		81.00	0	
	肥料倉庫	"	45.00		H			H		45.00	0	
	大農機具庫	"	129.60		H			H		129.60	0	
	小農機具庫	"	38.24		H			H		38.24	0	
	農機具実験棟	"	121.50		H			H		121.50	0	
	鉄・木工工作室	"	64.80		H			H		64.80	0	
	実験用農機具 庫	"	145.35		H			H		145.35	0	
	糊摺プラント	"	158.50		H			H		158.50	0	
	堆肥舎	"	45.36		H			H		45.36	0	
	資材倉庫	"	66.15		H			H		66.15	0	
	発生予察調査 質	"	62.21		H			H		62.21	0	
	標種合理化施設	"	169.05		H			H		169.05	0	
	防鳥福架舎	"	120.00		H			H		120.00	0	
	世代差促進温室	"	141.75		H			H		141.75	0	
	女子シャワー 室	"	10.08		H			H		10.08	0	
	農機具庫	"	180.00		H			H		180.00	0	
計			5,524.40	0.00				0.00	0.00	5,524.40	0	
普通財産	なし											
計			0.00	0.00				0.00	0.00	0.00	0	
合計			5,524.40	0.00				0.00	0.00	5,524.40	0	

ウ山林

(平成23年1月31日現在)

行政・普通 財産の区分	土地の権利区分	機関名又は施 設名等	所在地	土地の面積等				立木の推定蓄積量				備考			
				前年度末 面積(m ²)	増減別	異動日	本年度の異動状況 面積(m ²)	増減理由	登記 年月日	本年度末 面積(m ²)	前年度末 現在高(m)		本年度末 増減高(m)	本年度末 現在高(m)	
															増加
行政財産	公有	農業試験場	鳥取市橋本字 奥ヶ谷291-1外	増加		H						3,508.95			0.00
				減少		H									
普通財産	なし			増加		H	0.00					3,508.95	0.00		0.00
				減少		H									
計				0.00			0.00					0.00	0.00		0.00
合計				3,508.95			0.00					3,508.95	0.00		0.00

エ 不動産売却 該当なし

オ 財産の交換 該当なし

カ 動産(船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機) 該当なし

キ 物権 該当なし

ク 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案件等) 該当なし

ケ 有価証券 該当なし

コ 出資による権利 該当なし

(2)金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成23年1月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		購 入 額	使 用 額		
郵便切手及び郵便はがき	円 71,889	円 47,341	円 95,790	円 23,440	(購入額47,341円中260円は、お年玉付年賀葉書当選切手受け入れ分)
収入印紙	1,800	0	0	1,800	
収入証紙	0	0	0	0	
タクシークーポン券	0	0	0	0	
鉄道バスプリペイドカード	0	0	0	0	
合 計	73,689	47,341	95,790	25,240	

イ タクシーチケットの受払状況 該当なし

(3)基金 該当なし

(4) 債権

(平成23年1月31日現在)

債権の名称	前年度末		本年度中				本年度末		備考
	金額 円	件数	増		減		金額	件数	
			金額 円	件数	金額 円	件数			
行政財産使用料	167,860	4	0	0	67,100	0	100,760	4	
合計	167,860	4	0	0	67,100	0	100,760	4	

20 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物
ア 土地

行政・普通 財産の区分	貸付 (使用許可) 目的	所 在 地	数 量 又 は 面 積	貸 付 (使用許可) 年 月 日	当 初 貸 付 (使用許可) 年 月 日	貸 付 (使用許可) 期 間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備 考
							単 価	本 年 度 の 貸 付 (使用)料	住 氏 名	所 名	
	NIT電話柱設 置	鳥取市橋本260	電話柱5本 支線1条	H19.4.1	H14.4.1	H19.4.1~H24.3.31	9,000 月額・年額	9,000	鳥取市湯所町2-258	鳥取支店	
	電力柱設置	鳥取市橋本260	電力柱3本 支線1条	H21.4.1	H16.3.31	H21.4.1~H26.3.31	7,480 月額・年額	7,480	鳥取市商栄町117-3	鳥取営業所	
行政財産	ソフトバンクモ バイル携帯電 話基地局	鳥取市橋本260	16.0㎡	H20.3.3	H15.10.24	H20.4.1~H25.3.31	18,700 月額・年額	18,700	東京都港区東新橋1-9-1	ソフトバンクモバイル	
	さのこまつり来 場者用駐車場	鳥取市橋本260	1,952㎡	H22.10.1	H22.10.2	H22.10.2		1,863	鳥取市富安1丁目84	財団法人 日本きのこセンター	
計								37,043			
普通財産		該当なし									
計								0			
合計								37,043			

イ 建物

行政・普通 財産の区分	貸付 (使用許可) 目的	所 在 地	数 量 又 は 面 積	貸 付 (使用許可) 年 月 日	当 初 貸 付 (使用許可) 年 月 日	貸 付 (使用許可) 期 間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備 考
							単 価	本 年 度 の 貸 付 (使用)料	住 氏 名	所 名	
行政財産	自動販売機設 置	鳥取市橋本260	2㎡	H21.4.1	H21.4.1	H21.4.1~H24.3.31	31,920 月額・年額	31,920	東京都港区芝大門2-5-5	ネオス(株)	
計								31,920			
普通財産		該当なし									
計								0			
合計								31,920			

(2) 物品 該当なし

21 借受不動産明細調べ

該当なし

22 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

(1) 職員住宅 該当なし

(2) 職員駐車場
ア 管理状況

財産の区分	所在地	1 区画の面積 (㎡)		賃付(使用)料(月額) (円)
		増	減	
行政財産	農業試験場(鳥取市橋本260番地)	12.5		1,000
普通財産	該当なし			

イ 異動状況
(行政財産)

月別	月初日	減		増		月末日	うち減免	調定額	収入済額	収入未済額
		人	うち減免	人	うち減免					
4月	36	人		人		人		円		
5月	36			4		36		36,000		
6月	40			1		40		40,000		
7月	41					41		41,000		
8月	41					41		41,000		
9月	41			1		42		42,000		
10月	42					42		42,000		
11月	42					42		42,000		
12月	42	2				40		42,000		
1月	40					40		40,000		
2月						0				
3月						0				
合計								407,000	407,000	0

23 自動車(二輪を除く)の管理状況調べ

車種	年式	登録番号	取得年月日	総走行 キロ数	本 年 度		備 考
					稼働 日数	(1か月平均) 走行キロ数	
普通貨物トラック	H3	鳥取11せ31-45	保管換え H12.7.24 H3.7.26	km 199,962	日 30	km 703	円 0
普通貨物トラック	H22	鳥取100さ60-65	H22.7.29	1,778	31	296	0
合 計		1台					0

24 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

25 備品の処分状況調べ

品 名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用年数	取得価格	不用決定年月 日	不用とする理由	処 分			備 考
							売却棄却の別	売却方法・棄却理由	処分 年月日	
田畑機	1	S60.5.24	年 8	円 305,000	H22.8.9	使用不能のため	売却	使用不可能なため	H22.8.18	円 0
合 計	1			305,000						0

26 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

該当なし

27 貸付金等状況調べ

該当なし

28 事業別予算執行状況調べ

目 名	財産管理費	(平成23年 1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
県有施設営繕事業	県有施設(農業試験場)13箇所を修繕	

目 名	人事管理費	(平成23年 1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
自治研修所費	中堅職員社会体験研修に係る経費	

目 名	農作物対策費	(平成23年 1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
花き生産強化推進事業	花壇設置(花苗等購入)に要する経費	
有機・特別栽培農産物等総合支援事業	日本有機農業学会に係る年会費(負担金)	

目 名	肥料植物防疫費	(平成23年 1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
農薬適正使用推進事業	<p>農薬の適正使用を推進することで、安心・安全な農産物の制裁を支援する。</p> <p>農業試験場では県特産物のうち、ラッキョウやムカゴなどのマイナー作物(年間出荷量が3万トン以下の作物)で問題となる病害虫防除に必要な農薬の登録を拡大するため、2種類の農薬について農作物中の在留農薬分析を行った。</p>	

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数	燃料		修繕費等	左の主な内容	備考
					消費量	金額			
トラクター	ヤンマー YH3110	S54. 5. 21	耕地整地、代かき	16	67. 2	5, 513			
トラクター	クボタ Z11-33	S61. 5. 7	"	28	117. 6	9, 649	5, 691	燃料ホース交換 その他	
トラクター	ヤンマー FX435	H 4. 5. 15	"	37	155. 4	12, 751	44, 625	座席シート	
トラクター	クボタ GL367QBMAP	H10. 4. 27	"	51	214. 2	17, 575	40, 950	ユニバーサルジョイント交換	
種子用コンバイン	ヤンマー CA135PT	H 3. 9. 30	稲刈り						
コンバイン	イセキ HL177	H 5. 6. 9	"	4	16. 8	1, 379	174, 285	フレーム、シャフト、ギア他部品交換修理	
コンバイン	三菱 MC405DGCLM	H 9. 9. 22	"	13	54. 6	4, 479	54, 075	深コギレール、ローラーフレーム交換修理	
コンバイン	ヤンマー GC 219	H17. 6. 30	"	8	33. 6	2, 757			
種子用ハーベスタ	ヤンマー PXD600T	H 1. 9. 5	"						
種子用ハーベスタ	ヤンマー PKO600T	H 4. 3. 10	"	5	21. 0	1, 723			
テラー	ヤンマー YTA-6A	H 2. 6. 11	収穫物等運搬	15	63. 0	5, 168			
テラー	ヤンマー YT-400	H 4. 5. 29	"	4	16. 8	1, 378			
テラー	クボタ TD 700	H18. 5. 8	"	17	71. 4	5, 857			
動力運搬車	CG191SLD-EW	H17. 5. 2	"	57	113. 0	15, 391	986	ベアリング交換	
動力運搬車	ライガー GX-101	H 6. 5. 23	"	86	361. 2	29, 636	25, 515	スロットルワイヤー、セルモーター修理	
動力運搬車	築水キャニコムELL801KZPW	H 9. 10. 1	"	87	365. 4	29, 981			
耕うん機	ヤンマー YS-80	S47. 11. 30	耕地砕土、畦立						
管理機	ヤンマー ST-512	H 1. 9. 25	除草土寄せ、畦立	2	4. 0	545			
管理機	IRS AR 600 エースローター	H 3. 7. 9	"	3	5. 9	804			
ネギ用管理機	ヤンマー NK7X M3	H11. 4. 23	"	9	17. 8	2, 424			
管理機	ヤンマー YB210	H20. 6. 16	"	6	11. 9	1, 621			
田植機	イセキ PS20さなえ	H 4. 5. 20	田植	1	2. 0	272			
田植機	イセキ PC20	H 14. 4. 30	"	7	13. 9	1, 893	45, 150	ゴムレಾಗ車輪L/R交換 エレメント、グリス	
田植機	クボタ SP-2HDSF	H 9. 5. 20	"						
側条施肥田植機	ヤンマー YP-250	S60. 5. 24	"						
成苗田植機	みのる LTP-4000	S60. 5. 27	"						
乗用田植機	イセキ ミニ-40	S63. 4. 30	"	11	21. 8	2, 969	12, 495	ベルト交換	
乗用田植機	イセキ PQ4 さなえ	H 7. 5. 1	"	13	25. 7	3, 500	98, 333	変速レバー部ベース・アーム・カム他交換調整	
バインダー	クボタ ZF-52	S58. 7. 30	稲、麦刈						
バインダー	ヤンマー YB 65	H 1. 9. 18	"	2	4. 0	545	14, 144	キャブレター、エアークリナー交換	
バインダー	ヤンマー YB-50	H 4. 2. 25	"	4	8. 0	1, 090	20, 885	結束部修理	
大豆収穫機	ヤンマー CS21(D)	H 6. 11. 18	大豆刈取	5	21. 0	1, 723			
不耕起播種機	みのる 歩行型2条型一式	H 7. 1. 10	乾田直播用播種						
フォークリフト	小松 FG09-2	H 9. 10. 16	収穫物等運搬	121	239. 6	32, 633	49, 350	特定検査整備	
歩行型マルチャー	ヤンマー PRT851 F-RB40ABD	H 9. 7. 15	耕うん、畝立、マルチング						
大豆脱粒機	PBT610	H16. 3. 23	大豆脱粒機	5	21. 0	1, 723			
合計				617	2, 067. 8	194, 979	586, 484		

30 生産物（品）に関する調べ

(平成23年1月31日現在)

生産部門	品名種類	作付面積	生産計画数量	生産数量				処分数量						分類換	差引残	備考	
				前年度からの繰越	生産購入	場内使用	差引計	売却		目的外使用		廃棄	計				
								数量	金額	数量	金額		数量				金額
		a	kg	kg	kg	kg	kg	円	kg	円	kg	kg	円		kg		
水稲	原種	170	4,000	10,174.8	3,877.0		14,051.8	3,950	1,425,375			1604.5	3,950	1,425,375	420.3	8,077.0	
玄米	一般	389	22,000	900	20,610.0		21,510.0	16,740	2,841,569			810.0	16,740	2,841,569		3,960	
麦類	原種			49.7			49.7									49.7	
	一般																
	計			49.7			49.7									49.7	
大豆	原種	137	3,500	3,202.1			3,202.1	1,585.0	710,850				1,585.0	710,850	112.0	1,505.1	
	一般	46	2,800	3,038.1			3,038.1	3,038.1	242,254				3,038.1	242,254		0.0	
	計			6,240.2			6,240.2	4,623.1	953,104				4,623.1	953,104	112.0	1,505.1	
合計								5,220,048					5,220,048	532.3			

事業名	水稲新品種育成試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S43年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,447,000円) 936,044円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 県の顔となるような水稲新品種の育成	場内 智頭町 鳥取市 国府町	初期世代 30a 生産力検 定 20a 現地試験 30a	鳥取県における水稲の各栽培地帯及び栽培体系に適応する優良品種を育成する。	(成果) 30交配組合わせ、35組合せのF1個体養成、75組合せの世代促進、集団養成・選抜、440系統の系統養成・選抜、126系統の生産力検定を行い、有望系統2系統を選抜した。 有望系統2系統を「鳥系93号」(早生)、「鳥系94号」(中生)と命名し、奨励品種選定試験で試験することとした。 (課題) 地球温暖化や耐病性に対応しうる品種の育成。

事業名	奨励品種選定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度 ～ 継続		(予算額)	(1,754,000円)
			支出済額	856,624円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単)(補助) (委) 1.水稲 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 11ヶ所	52a 54系統 各10a 早生粳 4ヶ所各2系統 中生粳 4ヶ所各2系統 極早生糯 2ヶ所各1系統 飼料用稲 1ヶ所3系統	本県で普及奨励する水稲の優良品種を選定するため、鳥取農試、独立行政法人(作物研究所ほか4機関)、公立試(福井県農業試験場ほか8機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 極早生から中生および飼料稲まで49系統を供試し、4系統をやや有望とし、26系統を継続、19系統を打ち切りとした。 (2)本調査 極早生から中生まで5系統を供試し、1系統を有望とし、1系統を継続、3系統打ち切りとした。 有望な1系統「鳥系88号」(中生)を奨励品種候補とした。 (3)現地調査 本調査と同様の5系統を極早生から中生まで供試し、調査結果を上記の判定に活用した。 (課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定
2.麦類 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 1ヶ所	10a 二条大麦 7系統 六条大麦 4系統 10a 1系統	本県で普及奨励する麦類の優良品種を選定するため、独立行政法人(作物研究所ほか2機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 二条大麦は、5系統を全てを継続とし、六条大麦は、3系統を継続、1系統を打ち切りとした。 (2)本調査 二条大麦の1系統を有望、1系統を継続とした。有望系統「しゅんれい」を奨励品種候補とした。 (3)現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定に活用した。 (課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定
3.大豆 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査を行い供試品種の特性を明らかにする。	場内	15a 11系統	本県で普及奨励する大豆の優良品種を選定するため、鳥取農試、独立行政法人(作物研究所ほか2機関)、公立試(長野県農業試験場)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1)予備調査 早生および中生について、2系統を有望とし、5系統を継続、4系統を打ち切りとした。 (課題) 新規系統を含め、有望系統があれば本試験・現地調査に供試し、本県において栽培に適した優良品種を選定

事業名	新品種栽培マニュアル策定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H4年度(水稲・大豆)、H15年度(麦類) ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,361,000円) 685,395円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単) 奨励品種への採用が見込まれる水稲・大豆・麦類品種・系統について、円滑な普及と導入農家における生産安定を図るため、特性を活かした栽培法を確立する。 また、奨励品種採用後に明らかになった栽培上の問題点についても技術対策を策定する。</p>	場内	12a 2品種	水稲 「ゆめそらら」、「鳥姫」の品質を向上させる栽培技術を確認する。	(成果) 水稲 「ゆめそらら」の品質向上に向けた刈取り時期は、出穂後積算温度917℃であった。 「鳥姫」は、基肥重視の施肥で、外観品質が向上し、玄米中蛋白質含有率も低下することが明らかとなった。
		2a 1品種	ビール麦 二条大麦「しゅんれい」の栽培技術を検討する。	ビール麦 慣行栽培とほぼ同様な管理で、基準品種と同等以上の収量、品質が得られることが明らかとなった。
		7a 2品種	ハトムギ 葉枯病に強い2品種における栽培特性を明らかにする。	大豆 葉枯病の対策として、燐酸及び加里の施肥効果について、検証した結果、施肥効果は見られなかった。
				(課題) 水稲 高温登熟性にすぐれた品種「つや姫」等の栽培特性の検討 ビール麦 「しゅんれい」の栽培指針作成に向けた検討。 ハトムギ 栽培指針作成に向けた検討
水稲主要品種における生育データの集積・解析と情報提供	場内 現地13カ所	場内7a 坪刈2～3 地点/箇所	コシヒカリ、ひとめぼれ等の生育データの集積するとともに穂肥施用時期の目安となる幼穂形成期等の予測について検討する。それらの生育情報について随時現地に提供を行う。	(成果) 生育推移や収量・品質・食味等のデータを集積した。生育状況及び幼穂形成期等の予想日について「稲作技術情報」やHP等を通じて関係機関に情報提供した。田植時期からの積算気温を使った予想方法について過去10年間にさかのぼって基準温度の確認を行った。 「きぬむすめ」の生育データ集積を始めた。
				(課題) データ集積を継続し、生育指標値を随時修正していくとともに、生育ステージ等の情報を随時発信

事業名	主要農作物原採種事業		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度(水稲)、S56年度(大豆) ～ 継続		(予算額)	(5,204,000円)
			支出済額	932,795円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲の原々種の採種	場内	9a	水稲原々種の選抜。	(成果) ひとめぼれ28系統、コシヒカリ24系統、日本晴15系統、きぬむすめ15系統、ゆめそらら28系統について採種を行った。 (課題) 特になし。
2.水稲原種の採種	場内	140a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) ひとめぼれ、コシヒカリ、きぬむすめ、ゆめそらら、日本晴、ヒカリ新世紀について採種を行った。 (課題) 特になし。
3.大豆の原々種の採種	場内	7a	大豆原々種の採種。	(成果) 鳥取大山2001を22系統、緑だんだん28系統、タマホマレ38系統、サチユタカ34系統について採種を行った。 (課題) 特になし。
4.大豆原種の採種	場内・現地	148a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) サチユタカ、タマホマレ、、緑だんだん、鳥取大山2001、三朝神倉について採種を行った。 (課題) 特になし。

事業名	米の新規需要に対応する超低コスト生産技術の確立		担当室別	作物研究室・環境研究室
実施計画期間	H21年度 ～ H23年度		(予算額)	(2,465,000円)
			支出済額	1,342,139円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単、委) 1.多収稲による超低コスト栽培技術の確立	場内	140a	6 主な事業に関する調べに記載	
2.省力的なほ場管理技術の確立	場内	13a		
3.耕作放棄地復田化技術の確立	場内	6a		

事業名	水稲・大豆作問題雑草の総合防除対策試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H20年度 ～ H23年度		(予算額) 支出済額	(812,000円) 490,686円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委、単) 1.水稲新除草試験	場内	20a	水稲用新除草剤の本県への適応性検討。	(成果) 10剤について実用可能と判定した。 (課題) 難防除雑草に有効な新除草剤の探索。
2.大豆作における難防除雑草の防除技術確立	場内 現地	20a 20a	栽培法ごとの雑草発生の特徴の把握。 田畑輪換体系において、除草剤並びに田畑輪換等耕種的防除の組み合わせによる総合的な防除方法の検証。	(成果) 耕耘方法、除草剤使用の組合せによる雑草発生の特徴を明らかにした。 クサネム、アメリカセンダングサの土中種子量は水稲作後に減少することを確認した。 (課題) 雑草発生量、土中種子量の連年変化の把握。 不耕起栽培での技術確立

事業名	水稻・麦・大豆の高品質・安定生産を 目指した病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H18年度 ～ H22年度		(予算額) 支出済額	(1,956,000円) 1,212,295円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調 査 の 対 象 ・ 数 量 ・ 範 囲	本年度の試験研究 調 査 等 の 目 標	試験研究調査の成果・課題
(単・委) 1. 水稻・麦・大 豆の生育阻害 あるいは品質 低下の原因と なっている病害 虫を対象に、鳥 取県に適した 効率的防除法 を確立し、高品 質・安定生産を 図る。 2. 生産者から の要望が高い 省力防除法を 確立し、生産コ スト・労力の低 減を図る。	場内 鳥取市 八頭町 琴浦町	30a 20a 20a 20a	6 主な事業に関する調べに記載	

事業名	新農薬の適用に関する試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S46年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(802,000円) 686,278円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 本県の普通作物病害虫に適した新規の防除薬剤の選択および登録促進を目的として、日本植物防疫協会から受託し、効果を確認するとともに、本県の防除対策に資する。	場内 八頭町 (2か所)	25a 40a	殺菌剤およびその混合剤9剤、殺虫剤およびその混合剤9剤、計18剤の防除効果を検討する。	(成果) 新規薬剤の防除効果は、判定基準A(実用性が高い)7剤、B(実用性がある)5剤、C(効果は低いが実用性あり)6剤、D(実用性低い)は該当なしであった。 (課題) なし

事業名	水環境を守る肥料の低投入・低流出稲作技術の開発		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H22年度 ～ H25年度		(予算額) 支出済額	(2,259,000円) 1,434,502円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 水稲作においてリン酸投入方法の改善および窒素、リンなどの富栄養化物質の流出低減技術を確立し、環境保全型農業の推進と水環境の向上と生産コストの低減を図る。	場内 鳥取市金沢(湖山池南岸)	1ほ場 9ほ場	リン酸資材の施用基準について見直しを検討する。このため、現地の土壌実態を把握し、土壌のリン酸量に応じてリン酸肥料の量を変えて水稲の生育、収量への影響をみる。 ほ場から流出する濁水量を減らすため、代かきの方法(節水代かき、無代かき)を検討する。 ヒシを原料の一部に用いた堆肥の消費拡大を図るため、ラッキョウ栽培での利用を検討する。	(成果) 現地試験エリアの土壌実態について、農業者、農協、普及所と協力し約5割のほ場を調査した。このうち、土壌リン酸含量が多、中、少のほ場を選定し、それぞれにリン酸施肥量を変えて水稲の栽培試験を行い、リン酸肥料の量を低減できる可能性を得た。 濁水の流出量を低減するための代かきの方法を検討した結果、節水代かきが有望であることを把握した。 ラッキョウ栽培でヒシ堆肥を施用したところ、分球数が多くなり、ラッキョウが小粒化することを把握した。 (課題) リン酸肥料の低減により土壌中のリン酸含量が低下し、中長期的に見た場合に水稲の収量、品質が不安定になる恐れがある。今後は土壌の変化を把握しながら試験を進める。 節水代かきが現地に定着するためには、マニュアルの作成や実証試験の継続が必要と思われる。 ヒシ堆肥はコスト面を考慮した利用を模索しなければならない。

事業名	土壌保全対策技術確立事業		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S54年度 ～ 継続		(予算額)	(1,226,000円)
			支出済額	795,872円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) ＜土壌炭素調査＞ 地球温暖化防止と土壌肥沃度の変化を把握するため、農地に蓄積している炭素・窒素の量とその変化についての調査を行う。	県内26ヶ所の水田、畑、果樹園（鳥取、倉吉、米子、湯梨浜、北栄、琴浦、大山、伯耆、南部、日野）	土壌理化学性調査、断面調査、(18項目)、アンケート調査	適切な土壌管理法の確立にむけた土壌中の炭素、窒素量とその変動を把握する。	(成果) 計画通り調査を実施。 (課題) なし
(単) ＜土壌機能モニタリング調査＞ 県内耕地土壌の実態調査を行い、土壌管理や土壌改良のための基礎資料とする。	県内10ヶ所の水田、畑（倉吉、北栄、琴浦）	土壌理化学性調査、断面調査、(36項目)、アンケート調査	本年度の調査の実施と過去データの整理を行う。また、複数年の結果をとりまとめる。	(成果) 計画通り調査を実施。 「肥料のしおり2010」(JA全農とっとり編、県内農協、普及所等に配布)に県内土壌実態資料を掲載。 (課題) なし

事業名	湖山池塩分導入に係る水稲への影響に関する試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H 20年度 ～ H 22年度		(予算額)	(777,000円)
			支出済額	526,200円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(補助) 湖山池への塩分導入が試験的に実施され、池周辺農地での塩害が懸念されている。このため、塩分濃度が水稲へ与える影響の確認試験および現地圃場における水稲への影響の把握を行う。	場内 鳥取市瀬地区	118ポット 3ほ場	<p>ポットを用いて水稲品種ひとめぼれの耐塩性を把握する。特に、現在の管理基準である活着期まで300ppm、活着期以降500ppm(ともに塩素イオンとして)よりも、高い濃度での影響を把握する。</p> <p>現地ほ場において、田面水濃度をモニターするとともに、水稲生育の状態および収量、品質への影響を調査する。</p> <p>現地地下水の塩分濃度変化等を調査する。</p>	<p>(成果)</p> <p>ポット試験は、夏の猛暑の影響を強く受け、過去の試験とは異なる結果となった。</p> <p>現地ほ場の田面水濃度の把握および生育、収量への影響は計画どおり把握できた。現地データから、これまでの管理基準値を上げられる可能性(活着期まで300ppm、活着期以降600ppm)が示唆された。</p> <p>地下水の塩分濃度に関しては湖山池の塩分上昇とは直接的な関係はみられなかった。</p> <p>(課題)</p> <p>本事業終了後も調査メニューを選択し現地状況の調査を継続する予定である。</p>

事業名	水稲有機栽培技術の調査・技術確立事業		担当室別	有機・特別栽培研究室、作物研究室、環境研究室
実施計画期間	H20年度 ～H22年度		(予算額) 支出済額	(2,780,000円) 1,394,424円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1.水稲有機栽培技術の調査・検証 1)有機・特別栽培現地実践ほ場の調査・検証	鳥取市 倉吉市 ほか 現地ほ場	有機栽培 8グループ 18ほ場 特別栽培 1グループ 10ほ場	6 主な事業に関する調べに記載	
2)試験場内体系化実証ほ場の調査・検証	場内	17a		
(単) 2.有機・特別栽培米の施肥技術の確立 1)各種有機質肥料の特性把握	場内	11a 室内試験		
2)生育診断を取り入れた施肥技術の検討	場内 八頭町 三朝町 江府町	10a 各地点 ほ場1筆 (処理区 6区×2 反復/筆)		
3)環境影響の解析	場内	室内試験		

事業名	水稲・大豆の「ゆうきの玉手箱」技術 確立事業		担当室別	有機・特別栽培研究室、作物研究室、環境研究室	
実施計画期間	H21年度 ～H24年度		(予算額)	(2,150,000円)	
			支出済額	1,212,522円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
(単) 1. 有機栽培水稲における除草法の改善と新たな問題病害虫の防除技術の検討	場内 鳥取市 八頭町	12a 30a 20a	有機栽培水稲における簡易で低コストな除草法としてチェーン除草法と、これに適した健苗となるようプール育苗法の検討を行う。 また、有機栽培で新たに問題視されている害虫イネミズゾウムシに対する防除対策技術の検討を行う。	(成果) チェーン除草機は農試が製作した有望と思われる方式について、その製造方法と期待できる除草効果の程度を成果情報として取りまとめた。また、イネミズゾウムシ対策として移植時期を水田への飛来ピーク後とし、畦波シートで水田内に障壁を設けることで被害が軽減することを明らかにし、成果情報とした。 (課題) プール育苗は複数年データの取得が必要、他の技術はより効果が高まる方式を検討する。	
(単) 2. 有機栽培大豆の問題点把握と雑草・病害虫対策技術の検討	場内 鳥取市 倉吉市	11a 20a 20a	有機栽培品目の拡大をねらいに近年需用が高まりつつある有機栽培大豆において問題となるポイントを把握する。 また、対応の手法として、畑用除草機やリビングマルチの活用による雑草対策、LED緑色灯導入による夜蛾被害対策等に関する予備試験を実施する。	(成果) リビングマルチ(有用な草を繁茂させ雑草を抑える方法)は、その播種適期を逃した影響で十分な抑草効果が確認できなかったが、適期培土による抑草効果は高いと確認できた。畑用除草機は近年開発された方式を含むいくつかの機種を現地試験に供試し、それぞれの特徴を把握、またLED緑色灯による防除は大豆生育に及ぼす影響は低いことを把握した。 (課題) リビングマルチの生育量をより多く確保するための播種時期の検討が必要と考えられる。他の技術は一層のデータ蓄積が必要である。	
(単) 3. 有機栽培に輪作を導入することで期待できる様々な効果の検証	場内	7a	水稲作と畑作を適宜交互に組み合わせることで得られる、問題となる雑草や病害虫の被害軽減効果や肥料の低減につながる地力回復効果等、を検証する。	(成果) 分割したほ場で水稲と畑作物(サトイモ)を栽培し、各々の収量性と発生した雑草の種類・量を把握した。ほ場前歴は長年、畑状態であり、この影響で水田雑草の発生がわずかであったことから、輪作効果がうかがわれた。 (課題) 引き続きデータの蓄積が必要である。	
(単) 4. 各種技術を体系的にとらえた経営評価	場内	室内解析	確立された各種技術を組み合わせ、技術を体系的に経営評価するための基礎データ取得を行う。	(成果) 各々の技術がまだ開発途上であるため、経営評価の準備として作業時間、資材費等の基礎データの取得に努めた。 (課題) 現在のところ、特になし	

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する要望等 該当なし

(2) 監査委員事務局に対する意見・要望等 該当なし



所属名: 農林総合研究所農業試験場 (庁舎: 階:) 部局名: 農林水産部

2011/04/04 日現在

現在の編集可能者(ローマ字) : 表示

カイゼン推進員 : 坂東 悟 室長

場長 沢田 義久
作物研究室長 松田 悟
環境研究室長 坂東 悟
有機・特別栽培研究室長 熊谷 均

【総務担当】

分担事務	主査	副査
1 安全衛生推進に関すること 2 安全運転管理者に関すること	場長 沢田 義久	現業職長 松尾 静枝 現業職長 安東 久志 現業職長 下田 美実 主任研究員 三谷 誠次郎
1 農業試験場内での予算の配分に関すること 2 農業試験場費の執行状況管理に関すること 3 生産品の管理に関すること 4 本所企画総務部との連絡調整に関すること	副主幹 谷本 宏	室長 熊谷 均 松田 悟 坂東 悟 現業職長 下田 美実 非常勤職員(事務) 前田 真由美
1 文書の授受、集配に関すること	非常勤職員(事務) 前田 真由美	副主幹 谷本 宏
1 公用車の管理に関すること	現業職長 安東 久志	副主幹 谷本 宏 農業技術員 川戸 和文
1 ほ場管理に関すること 2 水利調整に関すること 3 施設、農業機械の管理に関すること 4 場内環境整備に関すること	現業職長 徳田 要介	現業職長 安東 久志 現業職長 下田 美実 農業技手 山本 博美 農業技手 田中 洋一

【作物研究室】

室長 松田 悟

分担事務	主査	副査
1 室の総括に関すること 2 経営分析・開発技術の経済性評価に関すること	室長 松田 悟	主任研究員 三谷誠次郎 主任研究員 坂本 勝豊 主任研究員 高木瑞記麿
1 栽培法の総括に関すること 2 多収稲の栽培法に関すること 3 雑草防除技術に関すること 4 麦類の奨励品種及び栽培特性に関すること	主任研究員 坂本 勝豊	主任研究員 高木瑞記麿 研究員 角脇 幸子 研究員